

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



苦あり楽ありロンドン生活

福島県生活環境部国際課 副主査 新野 梓

面では、英国の行政からは非常に得るものが多かったと思っています。

今となっては全てが良い思い出に

私はクレアでかけがえのない経験ができました。全国から派遣されてきた同僚たちとの出会いを宝物のように思っており、今でも定期的に近況を報告しあっています。

長年海外勤務を希望していた筆者は、念願叶ってのロンドン勤務でしたが、折り悪しく新型コロナウイルス感染症の影響で赴任が半年延期に。やっと英国に赴任できた際は、感染拡大によるロックダウンを初めて経験することになったほか、ブレグジットの影響で物流が滞り、スーパーが品薄になったりと、色々起こったものの、それも貴重な経験と、前向きに捉えていました。居住エリアに恵まれたこともあって、それでも比較的落ち着いた生活を送ることができましたが、帰国前にウクライナ危機が勃発。フライト事情にも混乱が生じ、帰国できるか不安になったのを覚えています。

欧州から学んだこと

業務に関しては、ロンドン事務所で、主に「ドイツの地方自治」の編纂、自治体からの調査依頼への対応や、オンラインセミナーの企画を担当しました。当事務所の管轄国は英国以外のヨーロッパ諸国の一部もカバーしているので、文献、ソース探しは英語だけではなく、ドイツ語やスウェーデン語などで行うこともしばしばあり、独特の難しさがありました。ほかにも、英国などの行政政策などを調査し、デジタル化、企業誘致、メンタルヘルスの支援に関してレポート



を執筆しました。特に業務効率化という

ロンドン・サザークカウンシルで、新型コロナウイルス感染症に伴う企業支援に関する施策についてお話を伺いました。筆者は右端

ロンドンから世界へ“福島いま”を発信

ロンドンに赴任中、東日本大震災から10年目を迎えました。コロナ禍で行動制限も続いていたことから、人を集めてイベントを開催することはできず、ロンドンしゃくなげ会（在英福島県人会）の一員としてオンラインイベントの運営に参加し、これまでの支援の感謝と福島の復興を発信。また11年目を迎えた際には、復興庁とJAPAN HOUSEのイベントでも、ワークショップに県人会のサポートボランティアとして参加。震災やこれまでの復興の歩みについて、参加者一人ひとりと、ゆっくりお話をすることができました。写真左オレンジ色の法被が筆者



復興庁主催のイベントに参加。写真左オレンジ色の法被が筆者

To the future

現在は、国際課で多文化共生全般を担当しているほか、駐日大使館との調整や福島県紹介パンフレットの作成など、幅広い業務に携わっています。自分が英国で経験したことや苦労したことは、現在の業務でも活かされていると感じますし、そういう気持ちを今後も持ち続けたいと思います。最後になりますが、当職の海外赴任に関しては、夫・子どもたちをはじめ、家族の力なしでは成し遂げられませんでした。この場をお借りして、感謝を述べさせていただきます。

プロフィール・ほか

- クレア在籍時の所属：
2019年4月～2020年3月 交流支援部経済交流課
2020年4月～2022年3月 ロンドン事務所
- 現所属：
2022年4月～ 福島県生活環境部国際課 副主査